

**Q：幼稚園の3つの年齢層の子どもたちについて、新学期に幼児体育面でどのような能力を重点的に育成すべきでしょうか。特にルール意識と日常の規律の育成についてご教示ください。**

**A：幼稚園における「体育的な活動」を通じてのルール意識や日常の規律の育成は、年齢発達段階に応じた重点が大切です。**

以下に、3つの年齢層（年少・年中・年長）ごとに整理してみます。

① 年少（3歳児）

- ・身体能力の重点
  - ・基本的な動き：歩く・走る・跳ぶ・転がる等、大きな動作を楽しみます。
  - ・バランス感覚やリズム感を養います。
  - ・ルール意識・規律面
  - ・「順番を待つ」経験を積みます（列に並ぶ、順番に滑り台を使う 等）。
  - －「合図で始めて、合図で止まる」活動（笛・太鼓・先生の声などに合わせます。）
  - ・簡単な片づけや終了のルールを、くり返して身につけさせます。
- あそびを通じて、ルールがあると楽しく安全にできるということを体感させると良いでしょう。

② 年中（4歳児）

- ・身体能力の重点
  - ・基本動作を少し組み合わせた運動（走って跳ぶ、ボールを投げて受ける等）。
  - ・集団での協力的な動き（2人組・小集団での運動あそび）。
  - ・ルール意識・規律面
  - ・簡単なゲームのルールを守る（鬼ごっこ・ボール渡し・リレーごっこ）
  - ・活動中に「自分の場所」「他人の場所」を意識して動く。
  - ・用具を使うときの決まり（勝手に使わない・片づけまでが活動です）
- ポイントは、友だちといっしょに楽しむにはルールが必要という社会性を感じさせます。

③ 年長（5歳児）

- ・身体能力の重点
  - ・基礎的な運動の組み合わせ・連続動作（走る＋跳ぶ、投げる＋捕る＋走る）
  - ・チームでの競技的なあそびに挑戦（リレー・玉入れ・簡単な球技）
  - ・自分の体をコントロールする力（俊敏性・持久力・協応性）
  - ・ルール意識・規律面
  - ・集団での約束事を理解して守る（ゲームの役割分担・勝敗を受け止めます。）
  - ・「開始から終了までの流れ」を自覚して動けるようにします。
  - ・負けても怒らない感情コントロールを伴った規律
  - ・運動会など行事につながる「協力・役割意識」を育てます。
- ポイントは、小学校への接続を意識し、活動の「ルールを守る・最後まで取り組む」力を育みます。

全体を通しての育成の工夫

- ・ルールは短く、分かりやすく、くり返し伝えます。
- ・「なぜそのルールがあるのか」を体感で理解できる活動にします。
- ・成功体験を積みせ、「できた！」「守れた！」をほめることで、内面化を促します。
- ・規律は、「叱って徹底」ではなく、「楽しく守れる雰囲気」を大切にします。